

## 平成19年度 教師海外研修(ネパールコース)研修報告書

学校名 愛媛県立伊予農業高等学校

担当教科 農業

氏名 田村芳貴

### 1. 今回の研修参加に際して、特に主眼をおいた点

今回の教師海外研修にあたり、私が特に主眼をおいた点は以下の4点である。

1つ目は、ネパールはどのような国なのかである。国際理解教育の第一段階として、まず日本だけの枠から意識を出して、世界の現状はどうか、今回であればネパールとはどのような国なのか、実際に自分が体験したことを踏まえて伝える必要がある。

2つ目は、ネパールの農業の実態である。現在、ネパールの人口の約8割が農業に従事しており、ネパールは農業国であると知った。そこで、実際に農家を見学し、栽培、経営、流通などを学び、日本とネパールの農業はどのように違うのかを理解したい。

3つ目は、学校教育のあり方である。今回の研修では、カリキュラム、教科書の印刷工場、学校現場、非正規教育など、ネパールの教育システムについて研修する機会が多くあるので、あらゆる方面からネパールの教育について学ぶことで、日本との違い、これからの教育のあり方などを考えたい。

4つ目は、JICAの活動の様子である。ネパールの人々はJICAのことをよく知っているが、私の周りの生徒はもとより、教職員もあまりJICAの活動について理解していないと感じている。今回の研修でJICAの活動の様子を伝えることで、国際理解教育への関心を深めていきたい。

### 2. 視察を通して参考になったこと／疑問に思ったこと

今回の研修でネパールの学校教育、浄水場、農場などを見学し、また、移動途中にカトマンズ盆地内の様子を見学することができ、生活の様子を一部ではあるが感じることができた。ネパールは様々な課題(民族、格差、教育、インフラ、産業など)を抱えていることがわかり、それらの課題を解決するためには、強いリーダーシップを持った政府が必要であると感じた。そのような多くの課題を抱えた中で、11月の選挙を経て、これからどのような方向へ進んでいくのか非常に興味深く思う。

JICAの様々な活動を視察していく中で、「適正技術」という言葉をよく聞いた。よく考えてみればあたりまえのことであるが、ただ最新鋭の技術を伝えるのではなく、今後のメンテナンスやその後の自立した成長を考えて、その国にあった適切な技術支援をすることが大切である。支援というと、ただ物や資金を送るだけと考えがちであるが、それは間違った支援であることを学んだ。

また、様々な視察場所で多くの協力隊員と出会うことができた。どの隊員も自分の得意分野を活かして立派に活動しており、活動に誇りを持ち、生き生きと取り組んでいた。協力隊員が実際に現地でのどのような活動をしているのか見ることができ、自分自身にもものすごく良い刺激となった。

### 3. 教育指導への活用について

渡航前にガイドブックを見て読むだけではあまり実感がなかったが、実際に現地に行って、見て、聞いて、感じることで多くのことを学ぶことができた。そのことは生徒に対しても同じことである。教員から一方通行の授業にはならないように、様々な体験学習を用いて、また、多くの写真などを使って視聴覚に訴えて、たくさんのことを学ぶことができる教科指導を実践したいと考えている。

まずは、画像や動画を用いて、ネパールの現状を伝えたいと考えている。私の経験がきっかけになって日本のことだけを考えるのではなく、世界のことでも考えることができる生徒を育成したい。

また、自分が最も主眼をおいているネパールの農業を伝えることについては、対照的な2件の果樹農家を視察することができたので、生徒たちにはそれぞれの果樹農家の様子を見せて、改善点やそれぞれの違いを考えさせたい。それに加えて、収穫後の流通・販売の問題点やネパールの農業が抱える問題についても紹介し、日本の農業だけでなく世界の農業の現状を知る機会としたい。

#### 4. 研修に関する全般的な所感／意見について

今まであまり国際理解教育に携わってきていない私が、ただ海外へ行ってみたいという何気ない軽い気持ちで応募し、事前研修に参加していた。しかし、事前研修を終え、研修の目的の確立、詳しい日程の決定、メンバーリストでのメンバーとの情報交換などを通じて、日々、自分に与えられたこの研修の重さを感じるようになった。

ネパールに到着してからは、自分が想像していた以上の光景に出会い、カルチャーショックを受けている自分がいた。それと同時に、自分はかなり視野の狭い人間だなと感じ、異文化体験とはこういうことだとわかったような気がした。現地での研修が始まり、多くの場所を視察することができた。ものすごくたくさんのご縁を得ることができた。これもJICAスタッフの素晴らしいセッティングのおかげであり、また、メンバーにもものすごく恵まれて、助けられてとても感謝している。ホームステイではネパールの生活を経験し、とても貴重な体験となった。家族とはネパール語と英語でコミュニケーションをとっていたが、十分応えることができず、日常会話程度の英語しか話せない自分がとても悔しかった。また、ネパールの食生活や時間の感覚も体験でき、世界にはいろいろな文化があるんだと実感することができた。

今後は多くのことを学ぶことができたこの研修を、どのようにして生徒たちに伝えていくかである。研修を通じて、当初立てていた目標以上のことが収穫できたので、その点をもう一度整理しなおして、生徒にわかりやすく、伝えるべきことを確実に伝えられることができるようにしたい。

#### 5. JICA四国に対する要望・提言

我々8名の教師に同行してくださった山本さんを始め、このような素晴らしい研修への参加の機会を与えてくださったJICA四国の皆様、実り多き研修となるために様々な配慮のもと充実した事前研修を実施してくださったJOCV中国支部の皆様本当に感謝している。これからは私が経験したことを生徒に伝えて、一人でも多くの生徒が国際理解教育に興味を示すよう努力していきたいと思う。

来年度以降も、この素晴らしい研修を続けていただきたいと思う。

#### 6. 今後の本研修参加者へのアドバイス

1番大切なことは、研修中の体調管理ではないかと思う。せっかく良い場所を訪問しても、体調が悪ければ良い研修にならないばかりか、他のメンバーにも迷惑をかけることになりかねない。また、訪問先の気候や食生活をきちんと把握しておき、それに見合った常備薬を準備しておくことが大切であると思った。今回は風邪薬や胃薬を携行し、とても役に立った。ただ、薬に頼るだけでなく、現地での食生活を理解し、きちんとした体調管理を心がけることが大切である。

あとは研修の意義、目的をよく踏まえた上で、充実した研修となるように、他のメンバーとの関わりを積極的に行い、あらゆる研修場所以で行動し、参加することが大切ではないかと思う。

#### 7. 各訪問先の所感

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと⇒それを何につなげるか？ その他所感
7/29(日)	タイ バンコク	到着した空港をはじめ、移動途中の高速道路、地下鉄、モノレール、宿泊したホテルや近くの街並などを見ていると、タイは自分の想像以上の発展を遂げていた。しかし、ホテルの裏通りにある住宅街を歩いてみると、住宅や道路事情などが良くなく、表と裏とのすごい格差がみられた。これからのタイの発展の様子が非常に興味深い。
7/30(月)	ネパール カトマンズ JICAネパール事務所 所長宅訪問	昨日訪れたタイのバンコクと比較して、同じ首都でもすごく違った雰囲気とその違いにとっても驚いた。しかし、自分が想像していたネパールのイメージよりも、カトマンズははるかに近代化していた。 ネパール事務所では、ネパールの状況、課題、最近の政治情勢、JICAの活動状況、安全対策、ネパール語について

		<p>の研修が行われた。</p> <p>ネパールにおいてJICAはとても関わりがあり、立場、認知度が高いことがよく理解できた。逆に、日本ではJICAがどれくらいの認知度があり、どのような立場なのだろうか疑問に思った。</p>
7/31(火)	カリキュラム開発センター 国立教育開発センター ジャナック教材センター	<p>各所訪問に先立ち、ネパールの教育についてのブリーフィングが行われた。その中でネパールの教育は多くの課題を抱えており、現状では解決はなかなか難しいと思われるが、政府機関がしっかりとの方針を示し、教育をしっかりとしたものにしてほしいと感じた。</p> <p>実際に、教育関係施設を訪問し、多くのことを学ぶことができた。現在、ネパールでは私立と公立の格差が激しく、その是正のために、義務教育の見直し、選択科目を取り入れたカリキュラムの改訂、教員トレーニング制度の導入、教科書の見直しなどさまざまな取り組みが行われていることが理解できた。</p> <p>教材センターの印刷工場では、シニアボランティアの活動の様子を生で見ることができ、現地の人との関わりや充実した活動の様子がうかがえた。</p> <p>課題の背景には様々な要因が重なって、複雑な問題となっており、簡単には解決できないだろう。しかし、国を支えるのは教育であり、それに携わる政府機関や教師などの大人がきちんとしないといけないということを改めて感じた。自分自身、教師という立場で、教師歴は短いにしても生徒にとっては教師に変わりはなく、その自覚をきちんと持って教壇に立たないといけないと改めて感じた。</p>
8/1(水)	初等学校4校訪問 ナバジョティ プルチョーキ パタレチャップ シヨデシヨール	<p>普段接している生徒と年齢層が違うため、どのように接しようか少し迷ったが、学校に着いた瞬間にそんな不安はなくなった。みんながものすごい笑顔で日々充実している様子がよくわかり、挨拶をしたらきちんと挨拶で返し、勉強の取り組みも一生懸命であった。日本の学校と比べると、施設設備面では明らかに劣ってはいるものの、勉強の取り組み状況や、子どもたちの学校生活は、日本よりも充実しているように思えた。</p> <p>また、それぞれの学校で先生たちの様子もうかがうことができた。様々な教材を用いて授業を展開しており、熱心に取り組んでいる先生が多いことがわかった。教員トレーニングの成果が出ていることが実感できた。最後に訪問した学校では、先生との面談の時間があり、教育に対して同じような思いや悩みがあることを知り、とても興味深かった。</p> <p>学校教育についてうまくまとめきれないが、いろいろと考えることが多い一日であった。</p>
8/2(木)	マノハラ浄水場 伝統的公共水場	<p>ネパールの上水道については、浄水場の建設など日本の支援がいろいろなところで行われていることが理解できたが、日本の上水道の現状とは大きく異なり、日本のレベルで考えた上水道の常識を大きく覆すものであった。</p> <p>急激な人口増加に伴う水量の不足、下水道の未整備による水源や配管の汚染、配水管そのものの汚染など多くの課題を抱えていることがわかった。日本の協力で立派な浄水場が完成したとしても、各家庭に行き渡るまでに、汚染されるのでは意味がなく、また、浄水場が現地の人によってきち</p>

		んと維持管理されるようになっていないと意味がなく、ただ施設設備を建てるだけでなく、後のことを考えた支援をしなければならぬことの大切さを改めて感じた。
8/3(金)	非正規教育クラス見学 ホームステイ先へ	<p>国の様々な事情によって、教育を受けられない子どもや大人がいて、このような非正規教育が存在していることが理解できた。誰に対しても教育は大切であり、このような制度は必要であるが、課題は山積みで、今の国の事情を考えると、これからどれくらい全国に非正規教育が広まっていくのだろうかと思う。</p> <p>今回視察した所はカトマンズ市内であったので、非正規教育の中でも比較的施設面はよいとされており、先日視察した初等学校とあまり遜色ないように思えた。しかし、そこが非正規教育の全てではなく、もっと劣悪な環境の中での教育もあり、様々な環境のもとで教育が行われていることを実感した。</p> <p>私立、公立、非正規教育それぞれで、ものすごい教育の格差が感じられた。</p>
8/4(土) 8/5(日)	ホームステイ	<p>私にとって初めてのホームステイであった。ものすごく不安であったが、温かく迎えてくれた。ほとんどの会話は英語だったが、英語に全く自信のない私は、怪しい英語と勢いを駆使してなんとか乗り切ることができた。日常会話はなんとか乗り切ったが、もっと深まった話ができないことがとてももどかしく、悔しかった。日本にいる以上、あまり英語の必要性がないかもしれないが、いろんな人とコミュニケーションがとれないほど情けないことはないと思った。</p> <p>滞在中はバクタプルやスワヤンブナートなどヒンズー教や仏教に関わる場所に連れて行ってもらった。市内の喧騒とは全く雰囲気の違いと、歴史を感じる場所であった。</p> <p>ネパールの食生活も経験することができた。手を使って食することは特に気にならなかったが、甘い味付けや脂っこさに少々戸惑いを感じた。また、食事の時間が日本とは異なっており、なれるのには時間がかかった。これが異文化理解だと実感することができた。</p>
8/6(月)	果樹農家見学 市内見学	<p>カトマンズ郊外にある2件の果樹農家の視察をした。それぞれニホンナシやカキなど日本の品種を導入しており、JICAの支援により、果樹栽培での高所得の獲得を目指している農家であることがわかった。</p> <p>しかし、栽培形態は両極端であった。ネパールにおける果樹の価値観はよく理解できていないが、日本の感覚で考えると、果樹は植えているだけでは意味がなく、きちんとした栽培管理がなされていないと毎年高品質の果実をつけないものである。</p> <p>1件目の農家は急傾斜地で、果樹や野菜が密植されすぎているために作業効率が悪く、ナシは剪定不足のため隔年結果を起こして結実がみられず、日本の感覚でいくともものすごく条件の悪い果樹園であった。</p> <p>それに対して2件目は作業道がきちんと確保され、栽培管理がきちんと行き届き、日本の果樹園とほとんど相違がない果樹園であった。</p>

		<p>しかし、栽培するだけでは意味がなく、それを買ってくれる消費者がいて初めて経営は成り立つのであって、日本ではよいとされる品種であっても、ネパールではその日本的高品質果実(味、大きさなど)が受け入れられるかどうかは不明である。町の果実店をみると果実の小さいものがほとんどで、経営が成り立つか成り立たないかはよくわからないが、質よりも量が大切にされているような気がした。</p> <p>ニホンナシについては、一般に売られているナシよりも価格が高く、一般の人にはまだあまり受け入れられていないようである。そのため、外国人がよく利用するホテルやスーパーに卸して所得を得ているようである。</p> <p>果樹栽培をしていて大変なことは何か聞くと、栽培自体は問題ないが、できた果実を市場へ持っていく流通が大変だと答えていた。街中までは距離があり、道路事情も良くない中で、バイクで毎日卸していて、ものすごくロスが多く改善が必要だと感じた。</p> <p>ネパール全土の農業をみると、稲作が中心でまだまだ果樹栽培は一握りぐらいの農家しかいないらしい。ネパールでは、果実は放置していてもできるものという感覚があるようだ。その概念が変わらない限りは果樹栽培が盛んになることはないだろう。</p> <p>これから先、果樹栽培や消費者の嗜好がどのように変容していくかとても興味深いのが、かつての日本のように、儲かるからといって、同じものを大量に作りすぎて、暴落することのないように栽培計画を立ててほしいことと、化学肥料や農薬に頼りすぎた環境に悪い栽培はさけてほしいと思う。</p>
8/7(火)	ネパール事務所 総括	<p>福田次長による今回の研修の総括が行われた。10日間とても充実した素晴らしい研修であり、参加できたことをものすごくうれしく思う。</p> <p>研修を通じて感じたことであるが、日本はかつて支援を受けていた国であったのが、今では先進国の一つとなり、逆の立場になった。そのような中で、過去に支援を受けたため、今度は私たちが途上国に支援をしなければならないと考える日本人が果たしてどのくらいいるのだろうか。確かに自分の国は大切にしなければならないが、地球という一つの惑星の中で、いろいろなところで互いに影響を及ぼしながら生活をしている以上、自分のことだけでなく地球規模で物事を考えることのできる人間にならないといけないと思った。</p>